

＜全体分析＞	試験時間	90 分	解答問題数	3 題
解答形式 全問記述式 分量・難易（前年比較） 分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加） 難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化） 出題の特徴や昨年との変更点 本年度も図形色が濃く，論証力，計算力が要求される出題であった。難易度は高いが，誘導が多い出題形式なので，うまくその誘導に乗ることが大切である。 その他トピックス 空間図形の体積とその最大値に関する大問が 2 題出題された。 近年頻出であった整数の性質に関する問題は出題されなかった。 2 が、高校グリーンコース 2 学期「高 3 難関数学ⅠAⅡBC」の 4・3 とズバリ的中。				

＜大問分析＞

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
1	空間座標 微分法	数学 C 数学Ⅱ	一定の条件下で変化する多面体の体積とその最大値に関する問題。体積は定積分でも求めることができる。	標準
2	場合の数・確率	数学 A	数字の重複を許して n 項並べる数列についての問題。どの 2 項の和も 7 にならないという条件から使用可能な数字の種類が限られる。	易
3	積分法 微分法	数学Ⅲ 数学Ⅱ	2 つの円板の共通部分が通過する範囲の体積についての問題。2 つの定積分の和を求めることになるが、置換積分で積分区間をそろえて計算量を減らす工夫をしたい。	やや難

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

発想力・論証力が要求される問題が多く，例年計算量も多いので，基礎を固めたら過去問などを用いて答案作成の訓練をしておくこと。大問の完答は困難な場合もあるが，誘導として出題されている小問は基本問題ばかりなので，それらを確実に解くことが合格の必要条件である。頻出分野である場合の数・確率・整数・空間図形・微分・積分は特に学習しておくことよい。本年度は整数の性質に関する問題が出題されなかったが、これまでと同様に他分野との融合問題として出題される可能性が高いので，整数の性質について対策しておくこと。
--